

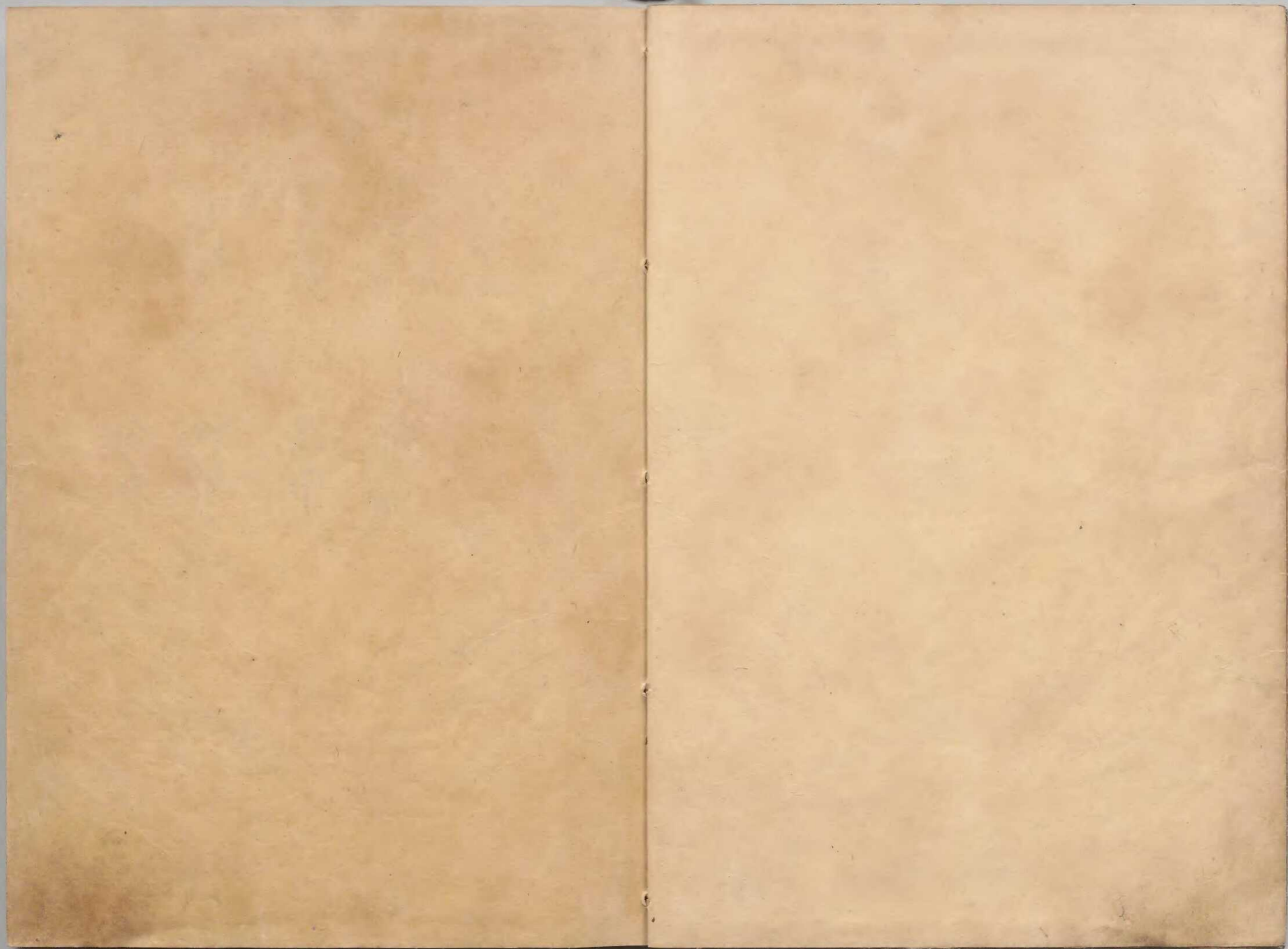
187

寛永諸家譜

藤原良  
寛永五冊之内  
支流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (137)		
函號	76	1	





升戸 尚升

升木 細升

升氣多 福升

升上 升口

寛永諸家系名傳

藤原氏

卷二十四

支流

升戸

淺草文庫

良弘

義授守 生國大和

織田信長 一之城 列栲嶋の城

一之城 信長 薨去 此後 法神 して

里夕砂と号す

寛永十七年正月一死す八十歳

寛弘

若狭守

生國同前

河内は尚軒煥文の許あり

寛永十四年めされく

白蓮院殿 淨福と

寛永十五年十月一死す三十三歳

法名免砂

治秀

忍草束の尉

生國同前

白蓮院殿

將軍家より此之くまらぬ

七十一歳より死す

秀長

忍草束の尉

生國同前

亡父の家督とす海はり

將軍家よりつとてまゐる

直弘 ちかひろ

新在東門尉 中園同前

文長十五年のころ

白鹿院殿より浄舘と

同十七年沙書院殿とつとむ

元和九年

將軍家よりつとてまゐる

寛永十五年十二月沙書院殿と  
なほ

良弘 りょうひろ

大馬助 中園大和

文長十五年のころ

白鹿院殿より浄舘と

同十七年喜山伯耆守忠俊が

組より属より沙書院殿とつとむ

同日十九年大坂沙陣の時  
皇極院殿より志すべしをまは

え和元年大坂再陣五月七日  
とそに告をまじけり期  
のうみ赤須青山忠後がと  
まひく直り馬を敵陣  
すめて首級とゆり後者  
を提志ふれど後者けり進く志  
が事あるははゆり得こ

らの首れ鼻ときり具足ぐそくのるよ  
所ところさむ時とき喜よろこ山やま大義おほいぎ水捕みづとら  
幸成ゆきなりありあふく彼か此この勞らう力ちからを  
しり忠後ちゅうご陣中ちんちゆうよとせくつくふ  
同年八月 喜よろこ山やまの後のち大坂おほさかの戦せん  
切きりと成なり威いありて水みづ母はは賞しょうの領地りやうちとた  
まはすか

寛永九年かんえいくねんれ喜よろこ免いり弘隱こういん居まゐり  
せり

勝者

將軍家約命とくごし終ひ元弘  
が地を元弘よりきぬちり元弘  
が地と元弘よあふ  
同年より北越道具をとりあふ  
同十五年十月元弘死してのち  
元弘が地を元弘よりけへあふ  
同十九年三月与力十騎沙鉄  
炮同心三十人をあひくふ

忠義勝射 生國伴貞

勝者幼少の時外祖父井戸を授守  
元弘年ちりて中へ実を山崎  
勘吉勝が子なり勝吉いしけちり  
て実父よりとらぬゆへ家系はちび  
らりたす

寛永元年二十歳の時免をりし  
將軍家とありきくす山崎沙小  
姓総の書とれとむ

同九年より大御書と此と

寛弘 さくひろ

三十郎 生國伊賀

元和五年免さく

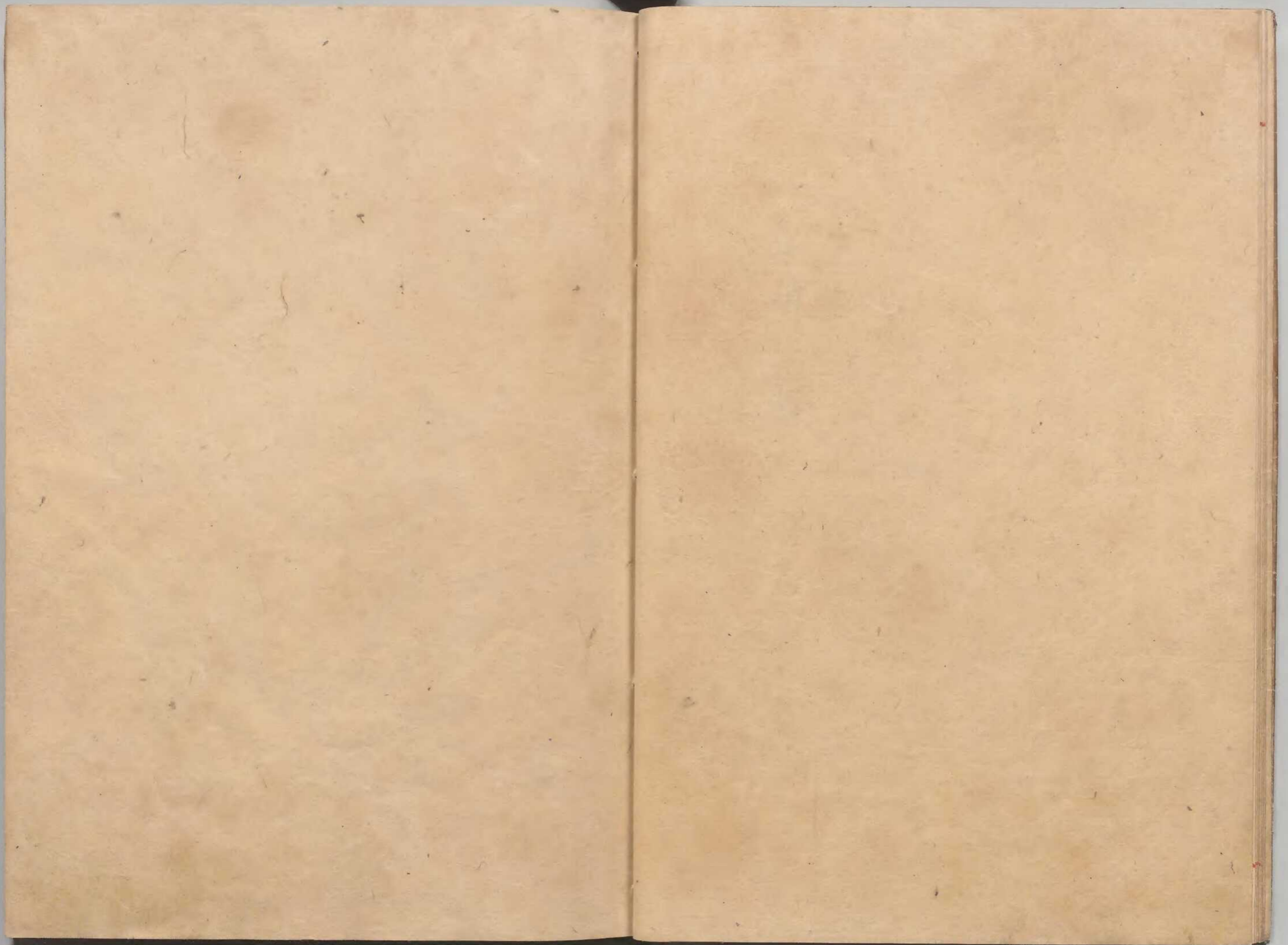
名徳院殿

將軍家と孫こひとてす

寛永八年より書院書と此と

家紋 五梅 ごうばい





為升たかあがり

某たがひ

順慶じゆんけい

本國大和ほんくにわ

某

順安じゆんあん

生國同前

織田信長おだののぶなが 〰〰〰  
〰〰〰  
〰〰〰  
〰〰〰  
〰〰〰  
〰〰〰

此より

某

城之内 生國日前

信長ちよびよ秀吉よりけし

某

紀伊守 生國日前

東照大権現よりけし西川家

多長十五年八月三日 六十歳より

去る死に

正次

白殿助

吉徳院殿よりけし

元和元年五月三日 二十七歳より

去る死に

正信 まさのぶ

左馬助 さまのすけ

生國山城 なまくにやましろ

將軍家より此へしつて川原領地  
千二百石をさへす

家紋

五梅 ごうめ

忠正

尚丹

治部大吏 中園大和

大永年中冬列よりり 清康君

一ししふすのりまは

東照大権現よ川のそりひふ

永禄六年 在願寺門流一揆のそり

冬列二年堤をひく討死

忠次

内苑 生國冬河

永禄十二年

大権現寺列龜川を責し海より

天正十年甲辰自級をゆるり

大権現乃教命をかり伏せり

て討死

忠重

内苑 生國冬河

大権現一川をひく討死

のぼをつもむまは

右徳院殿よはくきく海にり沙細戸の

者頭とむらつづく

お軍家一川をひく討死

寛永十九年領地をくけし海  
老り江戸御城の番守居申す

忠助

友我 生國駿河

寛永九年

將軍家とおしきくまひる

月十年領地とくぬ

忠景

源忠 生國相模

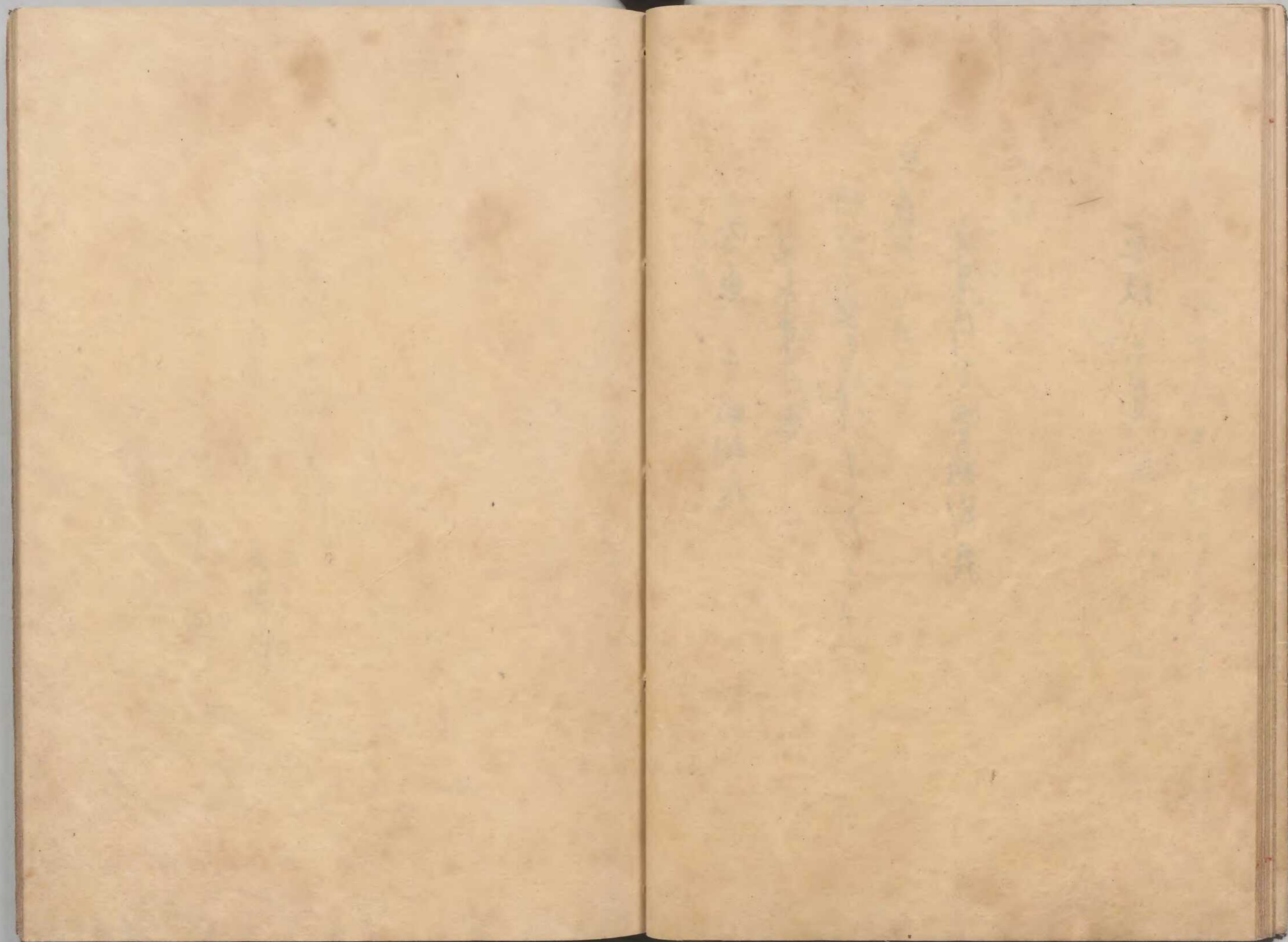
寛永十七年

將軍家を孫にたくす

忠茂

小十郎 生國武藏

家紋 六星





● 忠光 ちゅうこう

月升 げつしょう

甚六 しんろく 生園冬河

清康 きよかみ 君たる きみたる びよ びよ 廣忠 ひろちゅう 御 ご

此 こゝ 子 こ 中 ちゆう 山 さん 分 ぶん 六十八 むそはち 栄 さか 小 こ 一 いち 々 々

死 し 亡 ぼう 法 ほふ 名 な 京 きやう 念 ねん

久忠 ひさただ

源左衛門尉 生國同前

東照大権現

台徳院殿

將軍家一ノ此ノ一ノ海行不

重三 ちゆうさん

七郎左衛門尉 生國氏流 じゅうしち

台徳院殿

將軍家一ノ此ノ一ノ海行不

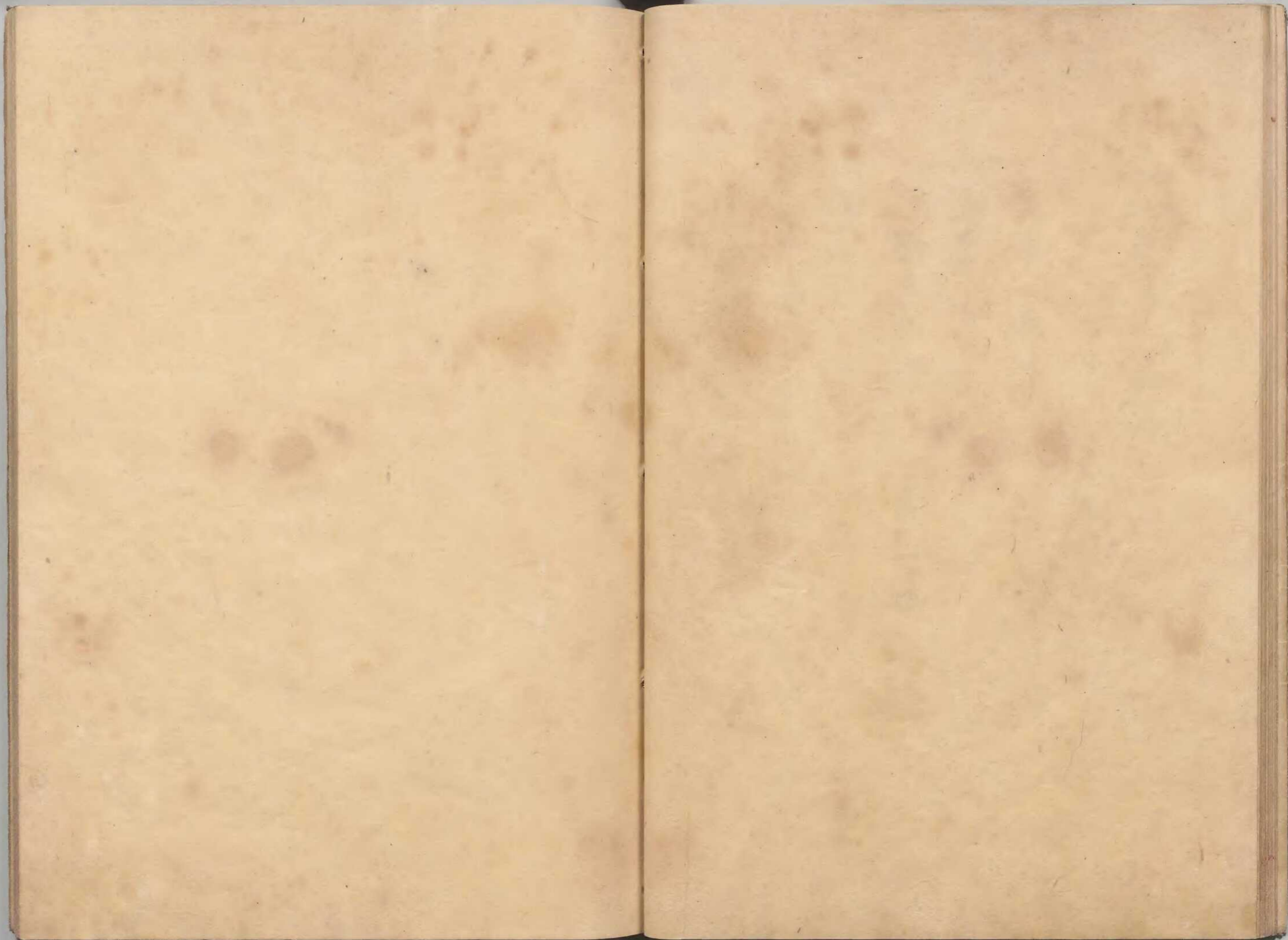
忠重 ちゆうじゆう

源左衛門尉 生國同前

寛永十六年

將軍家一ノ此ノ一ノ海行不

家紋 梅輪内 うめわね



● 集

与右楽の尉

生國冬之河

清康君なるびよ

東照大権現一此くそそ戸川子

永祿六年冬列本願寺の汽蜂記

の時与右楽の枝宗旨よりとと

尚井つ

是<sup>元</sup>よりあるはむ

大権現乃幕下<sup>ら</sup>ありく忠節<sup>ちゆうせつ</sup>と  
つらに八十三歳<sup>やそ</sup>ありて死す

正吉<sup>まさよし</sup>

次左衛門尉 生國同前

大権現よりい<sup>は</sup>く<sup>く</sup>戸川<sup>とがわ</sup>ふ  
天正<sup>てんせい</sup>年中長<sup>なが</sup>藤<sup>ふじ</sup>長<sup>なが</sup>久<sup>ひさ</sup>子<sup>こ</sup>又<sup>また</sup>度<sup>たび</sup>の  
御<sup>ご</sup>陣<sup>じん</sup>に侍<sup>さむらい</sup>奉<sup>ほう</sup>じ其<sup>その</sup>後<sup>あと</sup>

白徳院殿より一<sup>い</sup>之<sup>の</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>戸川<sup>とがわ</sup>ふ  
六十七歳<sup>むそしちさい</sup>ありて死す

吉重<sup>きちしげ</sup>

次左衛門尉 生國武苑

大権現より一<sup>い</sup>之<sup>の</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>戸川<sup>とがわ</sup>ふ  
享<sup>きやう</sup>長<sup>なが</sup>十九<sup>じゅうきゅう</sup>年<sup>ねん</sup>元<sup>げん</sup>和<sup>わ</sup>永<sup>えい</sup>享<sup>きやう</sup>多<sup>た</sup>大<sup>だい</sup>坂<sup>さか</sup>又<sup>また</sup>  
度<sup>たび</sup>に御<sup>ご</sup>陣<sup>じん</sup>に侍<sup>さむらい</sup>奉<sup>ほう</sup>じ其<sup>その</sup>の<sup>の</sup>ち

白徳院殿

將軍家より川へさしこま川へ  
三十四歳より死す

重政

次なる村 生國河前

寛永八年吉守よりなるいそ  
子とん実者大是合三郎正貞子  
なり正貞氏列の戸よりしるす  
白蓮院殿よりしるす大

坂内村の信春とつる二十五歳より

して死すも父三郎大正保三列

よりしるす 廣忠のちよりしるす

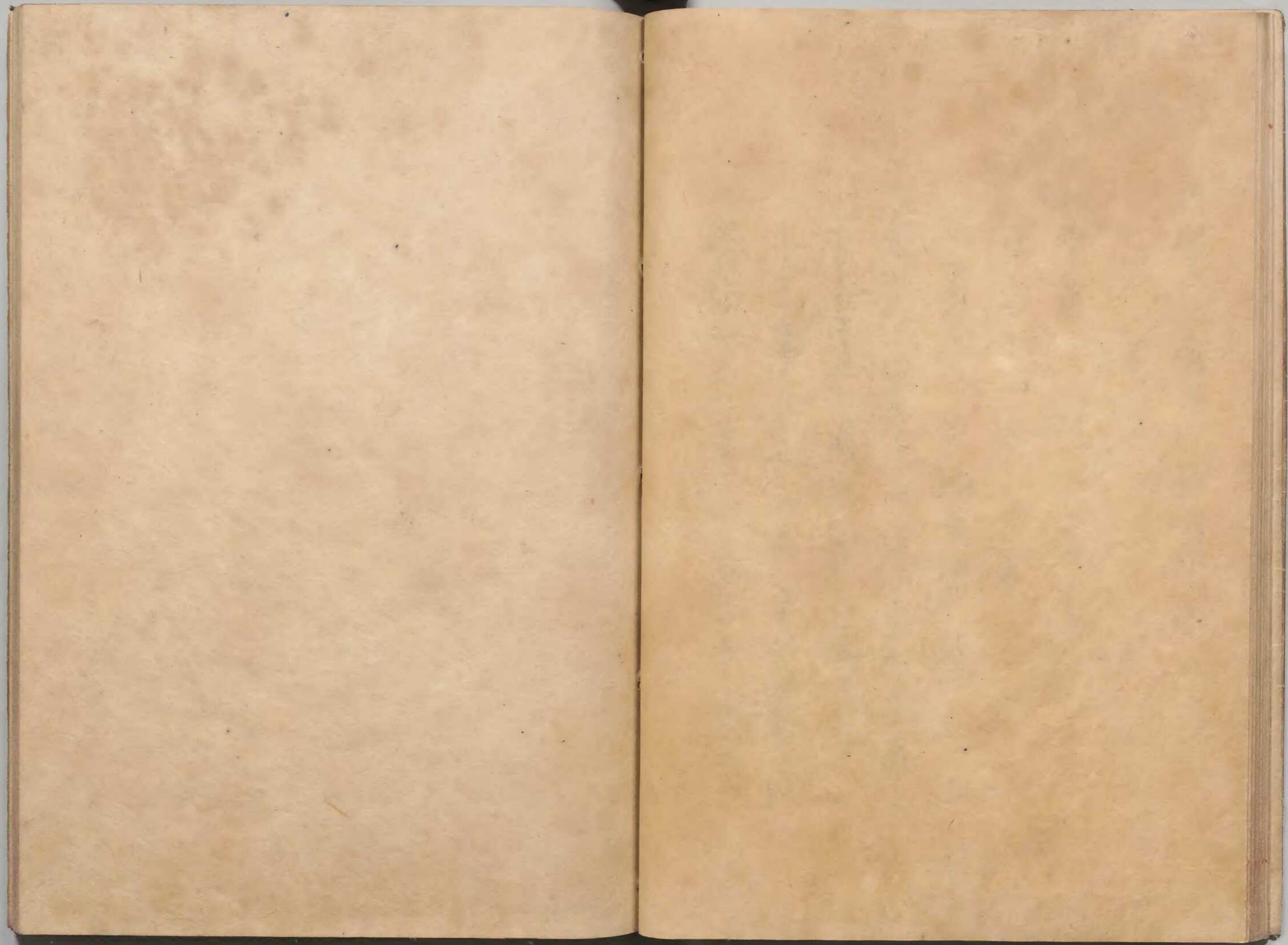
大権現より川へさしこま川へ八十歳より

死す 家紋井柳梅

寛永十二年より重正

將軍家より川へさしこま川へ

家紋 圓の梅梅梅



井出

● 正直

坂九郎 生國後河

今川氏真より此之三浦土佐守

より居てある時相列氏政氏直が接合

と形系と此戦功をいげすは是

よりいさく氏政よりこれ感状を通



正次

あり其後甲列より出張の時正直大  
文乃城より楯籠神田栲よといへ  
討死

志摩守 生國同前

百正十年

東照大権現より堀よりきくまの  
駿河よりをひく河代宿職を

つとむ

同十八年駿河河原よりお國の所代宿  
職をいともむ

文禄四年 釣糸をうけし海より

後列町をいともむ

長十四年五十八年  
死に 法名日安

正勝

三右衛門尉 生國同前

文禄元年冬先づねく

大権現より湯ゆきりくす川に

松平石見守が継ついでりし

寛永八年七月十四日伏見ふしより

をしく死せし二十五歳 法名善昌ぜんしやう

正吉しやうきち

三右衛門尉 中園伊豆なかつのぞ

寛永八年六月のとき

大権現をおきりく海川に十

三歳より松平石見守が継ついでり

しりく大坂を度り御陣ごじんより

供く奉ほうりし

台徳院殿

將軍家よりけりし

寛永十三年六月十九日二十

八歳より死せし 法名源げん

正徳 まさとし

三左衛門尉

中園 駿河 しんぐわ

寛永十三年十二月某日

將軍家より湯ゆきくまの

同十七年 松平伊弉まつらひが總すべと

正徳 まさとし

甚おくまのすけ

生園 伊弉 いづ

寛永十三年十二月某日

大指現おほさしげん 湯ゆきくまの

台座院殿

將軍家より此こゝに

同十九年 成瀬なるせを後守ごもりの

大坂おおさかの陣じんより

寛永十八年二月二十九日 同十六歳

法名 春景 はるのけい

正陳

甚立在の尉

生國武苑

寛永九年十二月の尉

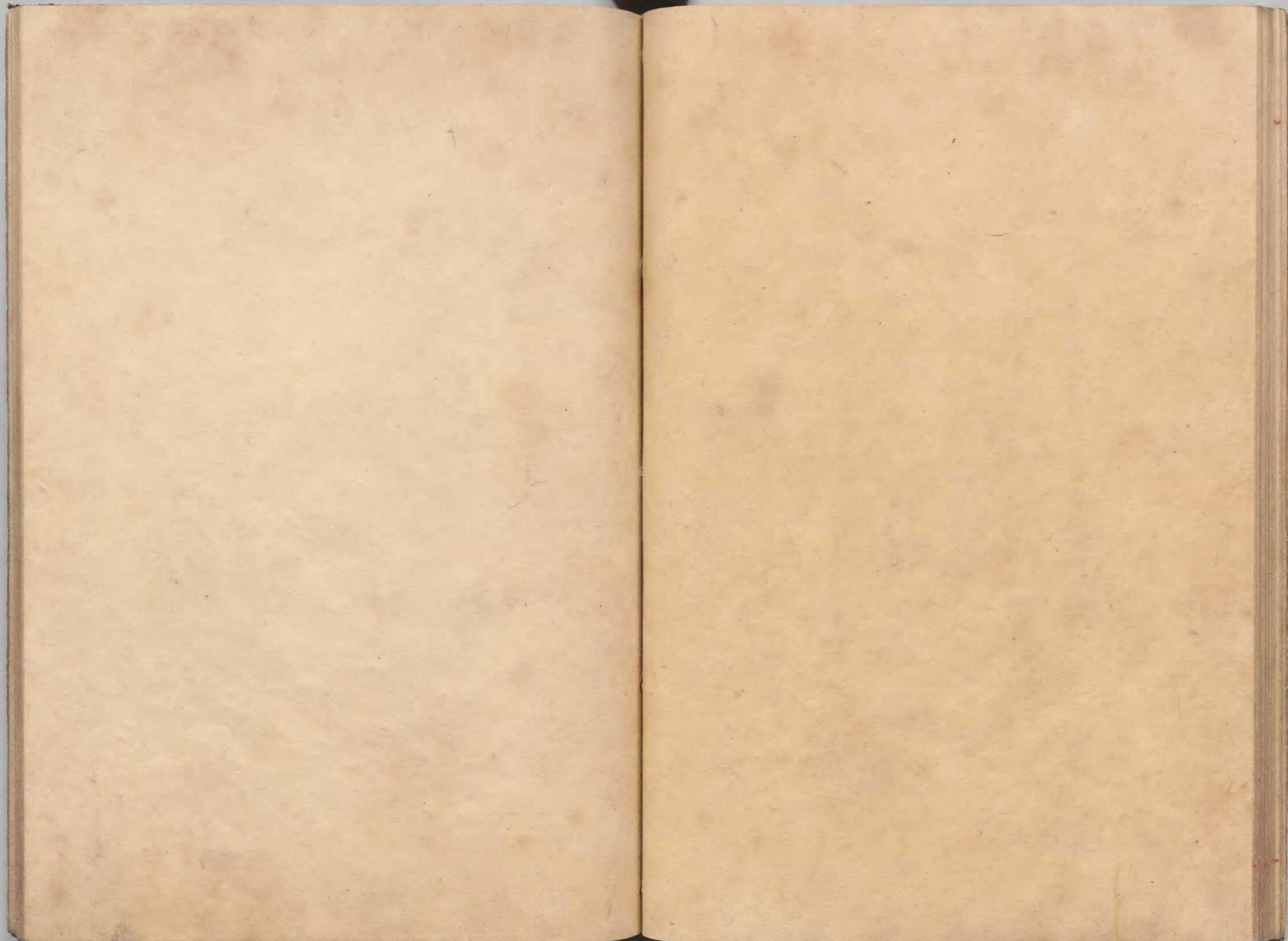
白鹿院殿の端たるくしりふ

日十一月

將軍家を有るく海川ふ

同十三年沙事院者をはらむ

家紋 舟柄の輪極



● 正像

井出

坂本末の尉

中園孫河

今川義元より所之く三浦右馬助

より屋を先祀を熊野經よりといへ

かきを孫河留士郡に井出よりいふ

かきを孫河留士郡に井出よりいふ  
法名蓮心

正信 まさのぶ

右大進の尉 甘國同前

幼少乃と此父よりをくらけ伯父并出 おぢやとちちよりをくらけおぢやとちちより

志摩守喜良育をくらけめくらけ しもののかみきりよくをくらけめくらけ

東照大権現

台津院殿

將軍家より歴仕よりきりくらけいふ しげんけよりれいしよりきりくらけいふ

寛永十二年六月十八日 かんえいじふにねんろくがつじふはちにち

て死す 法名了夢日信 てしす ほうなむりょうむつにち

正勝 まさかつ

右大進の尉 甘國同前

右軍家より此父よりをくらけ伯父并出 みぎぐんけよりちちよりをくらけおぢやとちちより

官をつとむ くわんをつとむ

茂稔 しげのり

右大進の尉 甘國同前

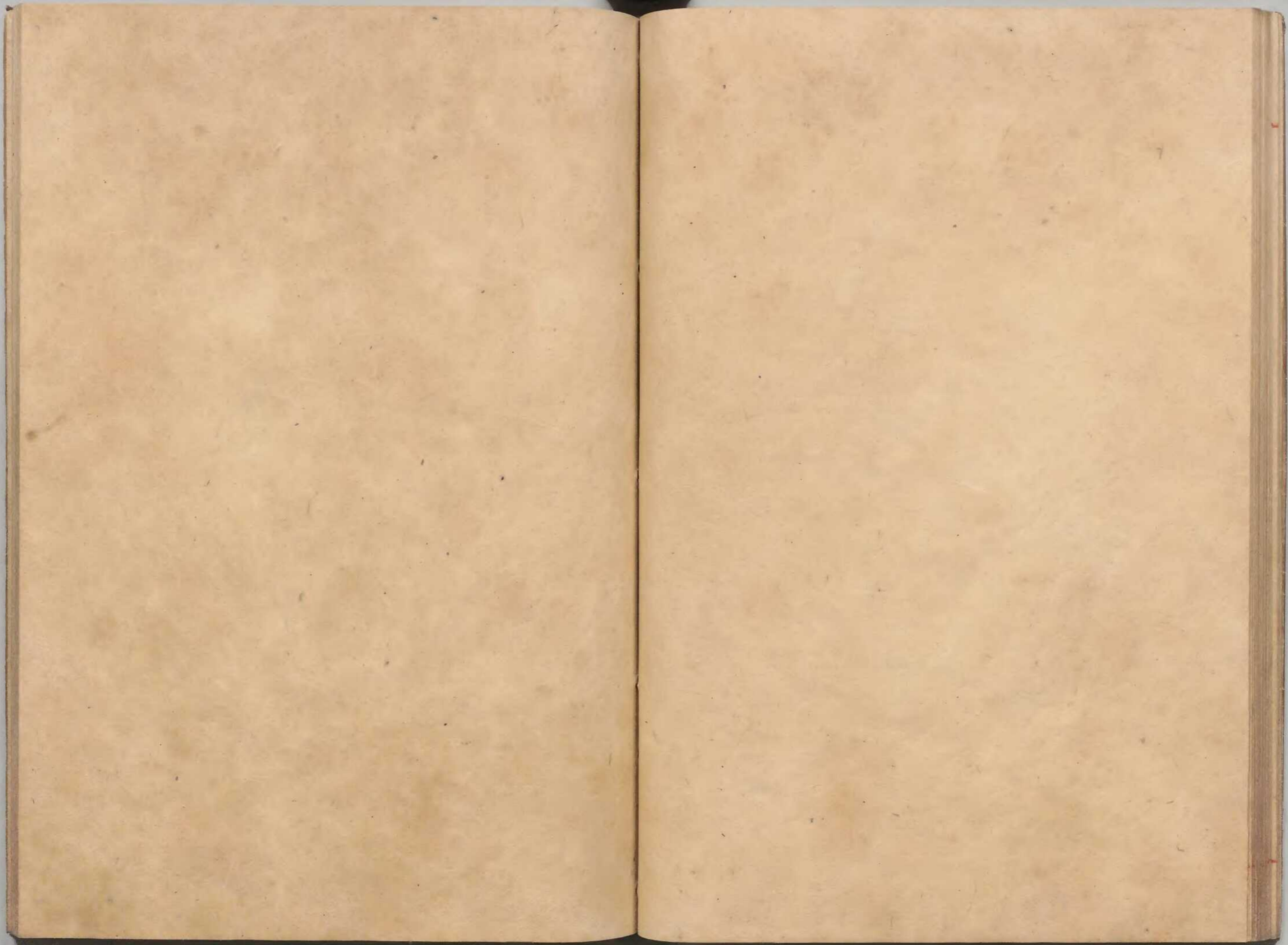
いしけなよりをくらけ父をくらけなむ いしけなよりをくらけちちをくらけなむ

外舅正信が忠臣の子とありふ、實は村松  
 義之助、義正の子なり、義正は生國  
 幸江、天正十八年小田原落城の時  
 之を義之助に長とて、一浪人  
 とあり、法名宗悋、義長を小幡氏改稱  
 あり、氏重よけよ、法名化仙  
 義總

將軍家より一つ之をくまひる

家紋  
 縮總の丸よ并柄





● 勝明 ちかみ

細井 ほそい

表之郎 あひらのらう 冬河 ふゆがわ 景崎 かげさき 小生 こせい 所 ところ

法名 ほふな 道休 みちやす

廣忠 ひろただ 一 いち 子 こ 月 つき 行 ゆき

勝久ちかひさ

金吾勝

牛國田前

東照大権現とうしょうだいこんげんより此之こゝよりました

御小村ごこむらとり家

永祿六年冬えいりく六年ふゆ列り女に願ねん寺てらのた虎こ蟠ばん起きの

とり記

大権現だいこんげんのま魔ま下くだよりありて和田わだのま城じやう

之の丸まるよりしとしくく一い事じ能ねをあははす

此時勝久鉄炮ちしちかひさてつぱうよりありて右のま肩かたを

つつぬぬく

元龜三年げんきう三年幸ありて右原わら合あ戦せんの時

精せい告こ一人ひとりを討たたり此の時このとき勝久ちかひさ殿の

一いて又首くび一い級きゆうといははす

正ただ三年ただ三年長なが原はら戦せん場ばよりしとして

勝久鉄炮ちかひさてつぱうをはらら雄ゆう告こ三人さんにんといははす

ろろと

大権現だいこんげんよりしとし後ごありて右軍ぐん功こう

を感<sup>ん</sup>ト<sup>テ</sup>海<sup>へ</sup>

同十二年尾列長久子合戦の

こ<sup>レ</sup>に<sup>テ</sup>甲<sup>ノ</sup>首<sup>ヲ</sup>二<sup>ノ</sup>級<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>ゆ<sup>ル</sup>

享<sup>和</sup>長<sup>五</sup>年

白<sup>河</sup>院<sup>殿</sup>佐<sup>右</sup>列<sup>士</sup>吉<sup>田</sup>一<sup>郎</sup>海<sup>軍</sup>教<sup>官</sup>の<sup>時</sup>

鐘<sup>大</sup>の<sup>を</sup>打<sup>つ</sup>り<sup>て</sup>供<sup>進</sup>を<sup>シ</sup>り<sup>し</sup>海<sup>軍</sup>傳<sup>令</sup>の<sup>時</sup>

後<sup>方</sup>鉄<sup>炮</sup>是<sup>時</sup>に<sup>十</sup>人<sup>と</sup>同<sup>じ</sup>に<sup>け</sup>り<sup>し</sup>

の<sup>ら</sup>又<sup>も</sup>二十<sup>人</sup>を<sup>く</sup>は<sup>へ</sup>し<sup>し</sup>海<sup>へ</sup>

元<sup>和</sup>六<sup>年</sup>七<sup>十</sup>七<sup>歳</sup>に<sup>死</sup>す

法<sup>名</sup>通<sup>可</sup>

勝<sup>芳</sup>

美<sup>濃</sup> 牛<sup>園</sup>回<sup>前</sup>

白<sup>河</sup>院<sup>殿</sup>一<sup>郎</sup>之<sup>御</sup>前<sup>に</sup>

享<sup>和</sup>長<sup>十</sup>二<sup>年</sup>四<sup>月</sup>廿<sup>三</sup>日

白<sup>河</sup>院<sup>殿</sup>の<sup>御</sup>前<sup>に</sup>在<sup>り</sup>し<sup>時</sup>

年<sup>に</sup>一<sup>つ</sup>と<sup>し</sup>て<sup>大</sup>長<sup>十</sup>六<sup>歳</sup>と<sup>す</sup>

長<sup>十</sup>六<sup>歳</sup>と<sup>す</sup> 教<sup>官</sup>と<sup>す</sup>

控人をとりこむなり

白旗院殿それ功を感みし一たまひ

十右史の出すもこの旗の口とあり

元和元年大坂の陣五月七日合

戦し首級を得たり

同六年父勝久の志を継ぎ鉄炮

同心五十人とあはれ

同七年 俵の陣ありて駿河清水

姫子の身取りとれり木五十五

人を形家

寛永十六年六十歳ありて死す

法名宗玄

勝武

金右衛門 中園武苑

元和六年

白旗院殿を築きて戸川

寛永四年

將軍家より此のくまのりふ

同十二年御小姓列

ておとせと列とむ

同十六年父がきつをへ

勝茂

依沢右衛門 生國日記

寛永元年四月十二日

將軍家より洋湯と

同年七月廿五日御書院敷と勤

勝也

同十六年五月廿一日 係より

て小十人組の番頭とむ

五郎左衛門 生國日記

勝也母のやうきふりよりて祖母

の氏をつとむ成瀬と号すと

寛永五年七月二十日

將軍家より洋湯と

同年九月より御小姓列

勝正ら まき

ておまを つとむ

越後清門

生國駿河すけが

寛永十二年八月十五日

將軍家と添しきりてす川家

同十四年二月十三日御書院書

を つとむ

家紋丸の内いへのしんま 劍さ 鳩と 酸す 草くさ

井氣多おげた

● 昌利まさとし

七郎二郎

今川義元いまがわのよしのぶより

天文十八年てんぶん義元織田おだ之郎五郎

が居城安祥きやうじやうをせむふと此十一月このしがつ八日

昌利大子まさとしに城戸じやうこより大とほふ



て是と燒 日二十三日上野南端  
城をひく合戦乃て昌利  
矢をうねらる城城中へ入  
あまよふく義えり此勲功を  
賞与しはねらる感書とさひく  
永禄十二年五月今川氏美濃落  
の後

東照大権現昌利が軍功あり事を  
きこしうされ 後ありく濱松乃城

水而守と川とむと後駿列よとて  
死と 法名宗璜

昌吉

源七郎 後五位下 播磨守

十三歳の記

白徳院殿へ謁しきくすし

手ゆとと後大内納戸に及を勤  
享長十四年中村伯耆守に改易

の<sup>う</sup>に<sup>ま</sup>伯耆<sup>くに</sup>の<sup>ま</sup>文<sup>を</sup>を<sup>し</sup>治<sup>は</sup>す  
元<sup>げん</sup>和<sup>わ</sup>の<sup>ねん</sup>年<sup>ねん</sup> 東<sup>とう</sup>福<sup>ふく</sup>門<sup>もん</sup>院<sup>いん</sup>乃<sup>の</sup>信<sup>しん</sup>を<sup>つ</sup>つ<sup>と</sup>す  
京<sup>きやう</sup>都<sup>と</sup>に<sup>あ</sup>り  
寛<sup>くわん</sup>永<sup>えい</sup>の<sup>ねん</sup>年<sup>ねん</sup>五<sup>ご</sup>十<sup>じゅう</sup>六<sup>ろく</sup>年<sup>ねん</sup>に<sup>死</sup>す  
を<sup>し</sup>法<sup>ほう</sup>名<sup>な</sup>宗<sup>そう</sup>冬<sup>とう</sup>

昌勝<sup>まさかつ</sup>

源七郎<sup>げんしちろう</sup>

十八<sup>じゅうはち</sup>年<sup>ねん</sup>に<sup>死</sup>す

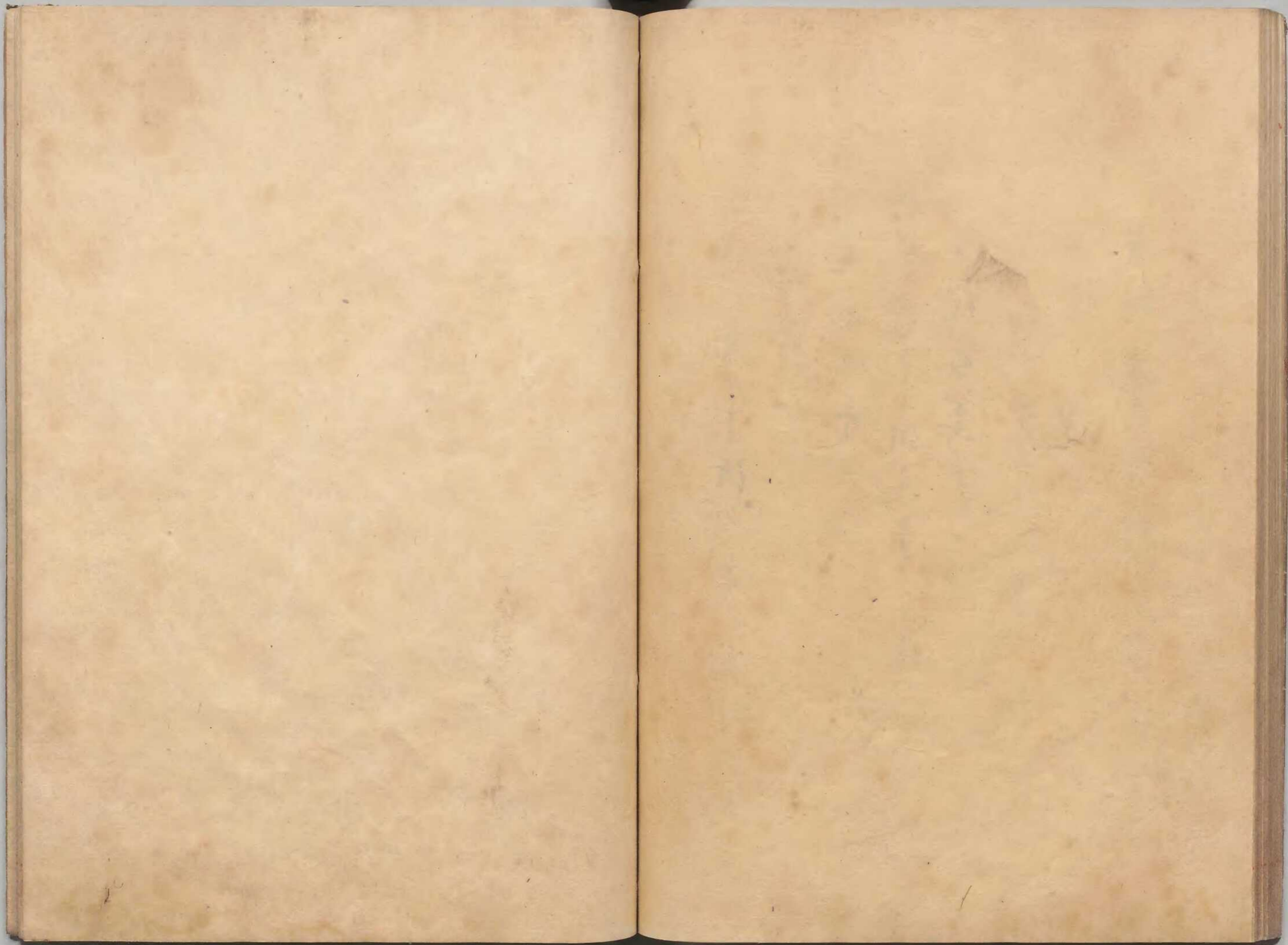
白<sup>しろ</sup>河<sup>が</sup>院<sup>いん</sup>殿<sup>でん</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>治<sup>ち</sup>す

小<sup>こ</sup>姓<sup>せい</sup>に<sup>あ</sup>り

寛<sup>くわん</sup>永<sup>えい</sup>の<sup>ねん</sup>年<sup>ねん</sup>

将<sup>しょう</sup>軍<sup>ぐん</sup>家<sup>け</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>治<sup>ち</sup>す  
平<sup>へい</sup>院<sup>いん</sup>殿<sup>でん</sup>に<sup>あ</sup>り

家<sup>け</sup>紋<sup>もん</sup> 藤<sup>ふじ</sup>乃<sup>の</sup>丸<sup>まる</sup>乃<sup>の</sup>目<sup>め</sup>乃<sup>の</sup>字<sup>じ</sup>



福井ふくい

某なにか

源流げんりゅう 冬列ふゆりゅう 谷や 生乳なまぎ  
水野みづの 右衛門ゑもん 大吏のだいし 一ひと 流りゅう 子こ

某

清苑せいゑん 生國なまくに 河前かまへ

水野下野守みづののり一いち所ところ

久次ひさし

清菟しみず 生國なまくに 同前

初はつめ名な水野下野守みづののり子こ川かわふふをを後ごめ

所ところ

東照大権現とうしょうだいこんげん一いち所ところ之の寺てら々々月つき山やま

寺てら列りゅう一いち宮みやの内うち子こととししくく二に百ひゃく十じゅう貫くわん

乃な地ちをを海うみ々々乃な多た依よ渡わた守し一いち所ところ

所ところ

至いた正しやう十じゅう八はち年ねん開ひら東とう海かい入い國こくのの附つ武ぶ列りゅう

高たか萩はぎ一いち所ところととししくく米こめ地ちををああららわわすす

寺てら海うみ々々乃な多た依よ渡わた守し一いち所ところ

所ところ

名な徳とく院いん殿でん一いち所ところ場ば々々寺てら々々山やま

寛かん永えい一いち所ところ武ぶ列りゅう子こととししくく死しすす

八十一歳はちじゅういちさい 法はふ名な長ちやう全ぜん

久信

宗た忠の 生國武統

孝長十一年父久次より代く

名徳院殿より此之をりくす川ふ

寛永元年 仰をかりり後河

大納言忠長卿より一厨一合

を銘を

日十六年めされく

將軍家より此之をりくす川ふ

総列横須賀村乃内よとひく兼地

をり海より奥方河津番と勤

正次

清右衛門 生國同前

名徳院殿

將軍家よりつ之をりくす川ふ

正重 まさしげ

勘定 かんじょう 生國回船

寛永十一年

將軍家より湯ゆききくくのの事  
同十八年大沙おほさ春はるとと川が心こころ

家紋 あざな 丸まるのの矢や若わか

井上

中長井と稱して道勝

井上とあり

道三

長井新九郎 後継者山城守也

号を別髪して道三と号を流列

波阜に城あり



義龍

右軍源義輝諱乃字とよむ

とよむ

龍興

右左衛門大輔

天正元年刀根山とよむ

戦死と

某

孫江郎

義龍がとよむ一宮とよむ

某

森平次

義龍がとよむ一宮とよむ

某

玄蕃物

某

新五郎

織田城へ入りし之に二条より  
をひく戦死を

女子

織田信長乃室

女子

菊亭右大臣前室

女子

尚井順慶書

通利

長井隼人依

濃列菊山の城より信長に

を逃治の通利を治人と相家と

後將軍源義昭より此首

荒木橋津守と和国伊賀守とお戦

事あり義昭より通利をより

和国伊賀守が陣一より此首

と此橋列白井河原よをひく

討死時うちころすとき 元龜二年八月二十八日  
なり 法名ほつな 蓮翁れんおう

通勝とらうしょう

志在しざい 出陣しゅつじん 長井ながい をあらしめんと  
井上いの上 と号なづ せむ  
是後このち 秀吉ひでゆき 一ひと 行い 之の 後のち 黄纒きんけん 乃なり  
殺ころ せしめしむ

定次じやうじ

志在しざい 出陣しゅつじん  
秀吉ひでゆき 一ひと 行い 之の 後のち 黄纒きんけん ののち 一ひと  
うかす

定利じやうり

小太夫こたふ の討うち 生國なまくに 英ひで 濃なる  
秀吉ひでゆき 一ひと 行い 之の 後のち 黄纒きんけん ののち 一ひと  
元和げんわ 元年げんねん 五月ごがつ 六日むいち 大坂おさか 御陣ごじん の討うち  
道明どうめい 寺邊てらべ 一ひと 行い 之の 後のち 黄纒きんけん ののち 一ひと  
一ひと 討死うちころす 法名ほつな 宗むね 宗むね

玉室ぎよくちう

大徳寺芳春院乃院之宗祖  
是利書御あひく子こと

利中りちゆう

次出湯村 中園橋津

元和元年五月大坂落座の復利中

と御教免あり二條の御城

をひく

東照大権現あつこう一湯ゆきく海川家

同年利中十二歳のと此武列

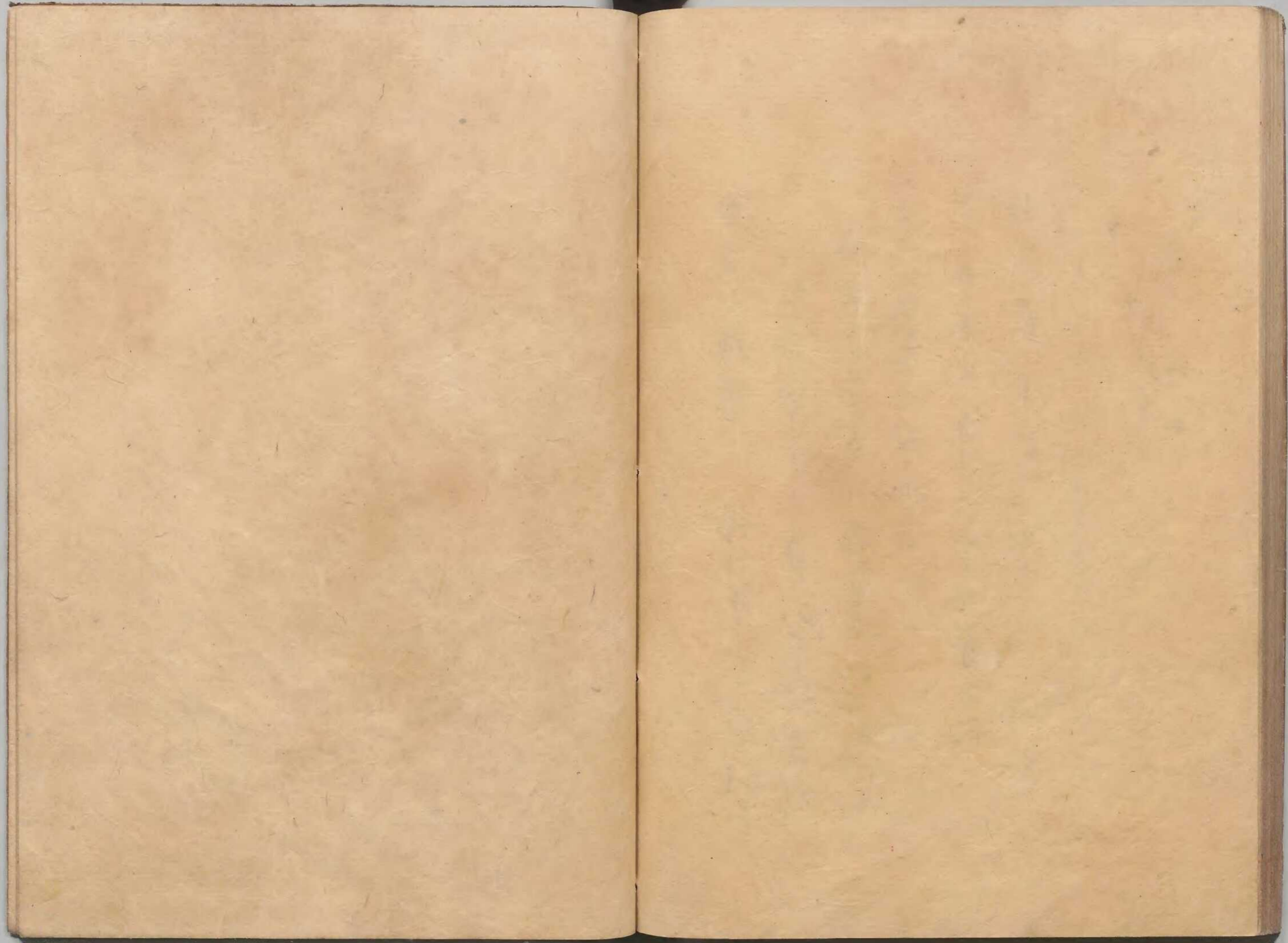
江戸えど一とまじま

名徳院殿よつとくま川家

寛永九年二十九歳の時

将軍家一此とくま川家

家紋 翟麦たがひ



升かのり  
口

● 宗重むねちか

助左衛門尉すけざゑもんゑい

通江し窪村とほゑしくぼむら 生乳なまぢ

織田信長おだのぶなが 一ひと

宗景むねかげ

助左衛門尉すけざゑもんゑい

生國なまくに

東照大権現トシノノ

宗貞ムネマサ

右衛門 生國ナマクニ同前

大権現

白蓮院ハクレン教ノノ

宗信ムネノブ

右衛門 生國ナマクニ同前

白蓮院ハクレン殿

將軍家ノノ

家紋 圓乃内マグルノウチ卷マキ

